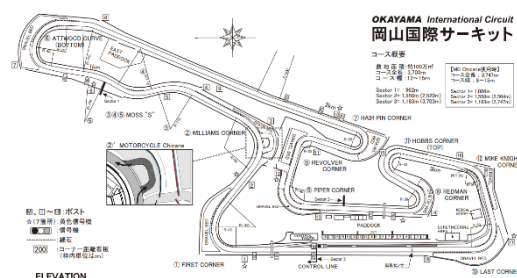


2023 GR86/BRZ Cup Rd.5 岡山 現地レポート

開催日：2023年9月9日-10日
場所：岡山国際サーキット
チーム名：TeamTakuty CHIBA SUBARU Racing
参戦車両：SUBARU BRZ 87号車
ドライバー：久保 凜太郎
メカニック：金田 正聡（ユーカリが丘店） 山影 裕介（鎌ヶ谷店）
松下 侑樹（東四国スバル）



9月7日(木)

前日 6 日(水)の夜、岡山空港から兵庫県の播州赤穂入り
6:30 には、サーキットに向けて出発。約 1 時間弱かけて、岡山国
際サーキットへ到着した TeamTakuty のメンバー達。
朝から晴天に恵まれ、9 月だというのに痛いくらいの日差しを浴びな
がら、初日の走行準備を進めています。

この日、88 号車 井口選手はスーパーGT のテストのため終日不
在。走行は、87 号車 久保選手のみとなります。全部で 3 本のス
ポーツ走行を実施。サーキット到着後、簡単に自己紹介を済ませテントの設営班と 87 号車の走行準備班に
分かれ、着々と作業を進めています。今回、87号車を一緒にサポートしてくれるのは、**東四国スバルの松下**
さん。88号車は**広島スバルの古川さん**が参加してくれています。9:00 過ぎには 87 号車の最終チェックが終



わり、いよいよ 9:20~岡山ラウンド 1 回目の走行が始まります。
走行する 87 号車のサポートを 6 人のメカニックで分担して進めま
す。ピットに着いた頃には気温 27℃を超えていました。今回の岡山
ラウンドはスーパーフォーミュラーライトと同時開催のため、ピットは使
用できません。SUGO やもてぎの時と同様、ピット前の強い日差し
を浴びながらの作業となります。そんな中、何度もピットに戻ってきて
は細かい調整を実施し、走行を繰り返す 87 号車 久保選手。サ
ポートするメカニックもまだどこか緊張しながら、それぞれの役割をしっかりと覚えるべく真剣に作業を進め 1 回目の
走行を終えました。テントに戻り、走行後のチェックを 6 人のメカニックが分担して実施します。さすがに 6 人いる
ので、タイヤの清掃などいつもよりも素早く進み、この頃には
メカニック達も慣れてきたのか・・・やっと笑顔が出てきたよう
に感じました。

そして 11:40。2 本目の走行が始まります。気温は 30℃
を超え、路面温度は 50℃近くまで上昇。ドライバー・メカ
ニック共に炎天下・暑さとの戦いが続く中、久保選手がタイム
短縮を目指し、慎重に様々なセットアップを試みます。
ピットインとコースインを繰り返しながら 2 回目の走行も終



了。路面温度も高く、フォーミュラーやレーシングカートが代わる代わる走行する事で、路面コンディションは一段と難しくなる中、土曜日の予選に向けて、チームの戦いは続きます。そして本日最後の 3 本目の走行。ここで今回初めて、走行途中のタイヤ交換作業が実施されました。メカニック 6 人がしっかりコミュニケーションをとり、それぞれの役割をしっかりと果たし、ドライバーの走行時間を少しでも多く確保するために、迅速にそして正確な作業で 87 号車をサポートしていきます。走行終了後はテントに戻り、走行後のメンテナンス作業。



88 号車の翌日走行準備作業も入り、88 号車担当のメカニック達もいよいよ本領発揮となりました。気づけばいつも以上に、色々なセットアップを試みていた 87 号車 久保選手。そしていつもより少し早く打ち解け合い一体感が出てきたメカニックの 6 名。明日からの走行に期待を寄せながら 1 日目が終了しました。

9月8日(金)

この日は、1 本目の走行が 8:00~という事もあり、ホテル出発は 5:30 と早い！ 昨夜、井口選手も無事にチームと合流し、いよいよ TeamTakuty 2 台が揃って岡山サーキットを走行します。朝から曇り空のサーキットは昨夜の雨で所々路面はまだ濡れている状況。しかし時折除く日差しは、真夏のように差し込み、あっという間にドライ路面へ。サーキットに到着して間もなく 1 本目の走行時間を迎えます。昨日は手分けして 87 号車の作業を実施した、88 号車担当のメカニック 3 名も、いよいよ本番という感じでやや緊張気味に 1 本目のコースインを見送ります。1 周目はタイヤを温めながら、2 周目に入りそれぞれのコーナーの感触を確かめるように 2 台は



走行を続けます。メカニック達もサインエリアからホームストレートを駆け抜ける 2 台を見つめます。この時タイム計測を担当するメカニックは、87 号車・88 号車だけではなく、他チームの車両のタイムも参考に計測していきます。今回から、ダンロップ勢はニュータイヤが導入されており、この時点でダンロップタイヤを装着しているチームのタイムが伸びてきていました。

TeamTakuty のドライバー 2 人も内圧など色々調整しながら 1 本目の走行が終了しました。圧巻だったのは井口選手。昨日

日までスーパーGT の BRZ に乗っていて、いきなりスピードレンジも全く違う 88 号車をドライブしたのに・・・

「慣れるまでは大変なんだろうな〜」なんて思っていたのですが、1 本目からあっさり久保選手と同じくらいのタイムで走っていました・・・やっぱりスゴい・・・！！

そして 2 本目の走行。87 号車 久保選手は今回初めて新品のタイヤで走行開始。1 周目でタイヤを温めて 2 周目のアタックを開始します。メカニックが見守る中・・・ストップウォッチを握る手にも自然と力が入ります。最終コーナーを立ち上がり、コントロールライン通過。タイムは **1'46"446** 全体 **2 位**のタイムをマークします。

88 号車 井口選手も全体 **5 位**につけ、上位をダンロップタイヤ勢が占める中、我がチームの 2 台はブリヂストン勢として素晴らしいタイムで本日 2 回目の走行を終えました。



一方、メカニック達は素晴らしいタイムに浸る暇もなく、テントに戻った車両走行後のメンテナンスを着々と続けます。そして慌ただしく、車検場へ任意の重量測定に向かいます。今回の岡山は車検場がテントの反対側！かなり離れていて炎天下の中、歩いて車検場に向かうだけでも一苦労・・・歩きながら他チームの様子を見てみたり、顔見知りになったドライバーやスタッフと挨拶を交わしながら、車検場を目指します。途中、普段あまり見る事がないフォーミュラカーを見ながら車検場に到着。メカニック達がゆっくりと車両を押しながら車検の確認をしました。

そしていよいよ本日最後の走行となる、専有走行。各チームとも明日の予選に向けた最終セットアップを施し、アタックを開始していきます。直後に 10 号車 菅波選手が 1 人 **1'45"**台をマーク。やはりダンロップタイヤ勢が上位を占めていきます。結果、井口選手は **10 番手**タイム 久保選手も **14 番手**タイムで専有走行が終了となりました。走り終えた久保選手は「**2 回目の感触は良かった。専有は上手いかない所もあったので明日の予選に向けて調整する**」と、どこか余裕すら感じるコメントを残してくれました。走行後、メカニック達は公式車検の準備を実施。いつもアライメント関係でバタバタしてしまう車検も、今回はメカニックのしっかりとした活躍で、1 回で難なくパス。

終了後、金田メカニックも「**自分に出来る事をしっかりやって、明日に向けて久保選手がしっかり走れるように準備していきたい**」と力強く話してくれました。ダンロップ勢は確かに速さを感じますが、我々にも十分チャンスがある事が証明できた 2 日目となり、チームとしても非常に良い状況で明日の予選を迎えます。

この時、唯一の不安要素としては、87 号車をいつも担当してくれているプロレースメカニック高橋さんが、予選・決勝に、不在になってしまう事。それを前提に 2 日間、色々とメカニックの指導をしてきましたが、明日からのメカニックの動きに注目したいと思います。



9月9日（土）予選

この日も朝から雲はあるものの日差しは強く、気温も上昇。予選が始まる 11:00 前には、気温も 30℃を超え、路面温度も 50℃近くまで上がっている状況となりました。スーパーフォーミュラライツ同時開催という事もあり、いつもより観客が多い中、予選スタートに向けて準備が進められていきます。担当プロメカニック不在の 87 号車ですが、メカニック達も自分で考えしっかりと行動出来ており、チーフプロメカニックの佐野さんに



フォローしていただきながら、準備完了。

いよいよプロフェッショナルクラスの予選スタートが迫ります。

87 号車・88 号車の順でスタートの合図を待つ 2 台。ここまでくるとメカニックは祈るのみとなります。まもなく、予選スタートの合図。

ブザーよりほんの少しだけ早く 87 号車 88 号車はコースイン。

前には 3 台。4 番目・5 番目でそれぞれアタックに入ります。

1 周目が終わり、前の 3 台から少し間をとって、コントロールラインを通過。アタック開始です。全員で見守る中、ホームストレートに帰ってきた 2 台は、前の 3 台との差を若干詰めて



いる感じでコントロールラインを通過。瞬間トップに井口選手、続いて 2 位が久保選手と画面に表示されます。直後に抜かれてしまいますが、最終的に、88 号車 井口選手が **1'46"408** で **3 番手**。87 号車 久保選手も **1'46"542** で **6 番手**と素晴らしいタイムで予選終了となりました。

昨日の専有走行後、井口選手と久保選手は予選に向けてセッティングやアタックのタイミングを話し合い、結果的に素晴らしい位置での決勝グリッドを獲得してくれました。予選を終え、メカニック山影も「**何もなく無事に走り切って良かった。順位も良いところにいるので決勝も頑張ってもらいたい**」とコメントしておりました。久保選手も「**スポーツ走行で良い走りが出ていたし、感覚は悪くなかったのが良かった。明日も頑張ります**」と話しておりました。メカニックもやっと安心したようで、車両保管のころには、疲れているにもかかわらず笑顔が見えておりました。



9月10日(日) 決勝

いよいよ決勝の朝。車両保管解除になった 87 号車・88 号車がテントに戻ると、すぐに決勝の準備に入ります。予選走行後のタイヤのメンテナンスをメカニック全員で実施。

決勝の無事を祈りながら作業を続けていきます。

まずは、クラブマンクラスの決勝が始まります。

予選ポールからスタートの 61 号車 BRZ の吉田隆之介選手が見事ポルトウウィン！十勝に続いて連続優勝を飾りました。

そしていよいよ、プロフェッショナルクラスのスタート時間が近づいてきました。いつものように、右のフェンダーに手を置いて、無事を祈りますが、この時・・・うまく言えないのですが、いつもとは違う“何か”を感じました。もう一度エンジンルームから、右回りに各部を確認しながら一周して車両を送り出します。メカニック達も続いてグリッドに移動開始。グリッドについた 87 号車。着々と迫るスタート時間。いつものように久保選手と握手を交わし、グリッドを後にします。まもなくフォーメーションラップが始まり、この頃には路面温度も少し上がってきていたと思います。12 周ロングとなるこの決勝なら、ダンロップ勢にも勝てるチャンスは大いにあると、誰もが感じていました。



フォーメーションラップから戻り、スターティンググリッドに着く 87 号車。今回はスタート位置もしっかり確認していたので、十勝のようなペナルティは無かったです(笑)レッドシグナルが点灯すると、エンジン音が一斉に大きくなりその直後シグナルブルーへ。88 号車・87 号車共に良いスタートを切ったように見えました。



ところが 2 周目、突然の**黄旗**。何かが起こったことを感じながら、88 号車・87 号車含む先頭グループがコントロールラインを通過し、2 台がとりあえず無事だったことに安心した直後、ピットロードを斜めに走ってきたのが 700 号車。車両は右側後方を大きく損傷しており、右リヤタイヤはとんでもない方向に曲がっている・・・何とかピットまでは戻りましたが、走行不能なのは一目瞭然でした。700 号車 地頭所選手が無事で本当に良かった。かなり大きなクラッシュが発生したと認識した時には既に**赤旗**が出ており、レースは一時中断となってしまいました。今シーズン初めての**決勝赤旗中断**。走行可能車両全てがピットロードに戻ります。ドライバーからの報告で、かなり大きい多重

クラッシュが発生している事が伝えられると同時に、ドライバーはどうやら無事であるという情報も入ってきました。87号車 久保選手から「現場にガラスが散乱していて踏んでしまっているから、タイヤに破片がたくさんついているかも」と・・・すぐにもガラス片を取り除きたいところですが、現状ピットロードでメカニックが車両に触れる事は出来ません。まもなく、オフィシャルからタイヤの目視確認の許可と、オフィシャル立会い条件で、ガラスの破片を取り除く作業許可が発表されました。メカニック総出で2台のタイヤを確認し、オフィシャルの許可をもらいながらガラス片を取り除いていきます。幸いにも87号車・88号車共にガラス片付着は少なく、この後のレースにも影響はなさそうでした。



コースの復帰を急ぐオフィシャルの方々。今回クラッシュに巻き込まれてしまった中には、ベテラドライバーの服部選手や脇坂選手の名前もありました。もし予選のタイムが0.1秒遅かったら、おそらく87号車も無事ではなかったと思います。改めてレースが危険と隣り合わせであり、勝つことがどれだけ難しいのかを実感しました。そんなことを考えていると再スタート時間のアナウンスが。約10分後、セーフティーカーを先頭に再スタート。結局、本来12週のレ

ースが残り6周となり、「後半ダンロップ勢はきつくなるのではないかと」予想していましたが、逆にブリヂストン勢がきつくなる形となってしまいました。

そして、セーフティーカーがコースから出ると、一斉に勝負が再開されます。久保選手も前にプレッシャーをかけながら、オーバーテイクを狙いますが、残り6周では厳しい・・・

結果、87号 久保選手が6番手、88号車 井口選手も4番手で、岡山ラウンド終了となりました。この難しいレース状況の中、クラッシュを免れ2台そろってポイント獲得できたことは非常に素晴らしいし、スタッフ全員が本当によく頑張ってくれたおかげだと思いました。



この岡山ラウンドも、いろいろな事が重なり、大変な状態でしたが間違いなくチームとしても大きく成長できたラウンドだったと感じました。いよいよ今シーズンも残り2戦。井口選手はポイントランキングトップをキープしています。2人のドライバーが全力で戦いけるように、我々ディーラーメカニック・スタッフも全力で頑張ります。引き続き、応援よろしくお願いいたします！！

